

平成30年度第3回きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会（和歌山市会場）

1. 日 時 平成30年7月24日（火） 13:00～16:30
2. 場 所 和歌山県立体育館
3. 参加者 市町村教育委員会職員・地域共育コーディネーター・地域ふれあいルーム関係者・いきいき交流教室関係者・子どもの居場所づくり指導者・教職員 等

合計 47名

4. 内 容

◆講演

「コミュニティ・スクールのねらいと具体的な導入の在り方
～地域学校協働活動との効果的な連携システムづくりを通して～」
文部科学省CSマイスター 木本 育夫 氏

○学校と地域の連携・協働の必要性

- ・子供たちは他者と協働しながら未来を創り出し、課題を解決する力が求められる
- ・地域社会とのつながりや信頼できる大人との多くの関わりを通して子供たちは心豊かにたくましく成長する

○学校運営協議会と地域学校協働活動との連携の効果

- ・学校運営協議会と地域学校協働活動が両輪となることで、「地域とともにある学校づくり」が実現できる
- ・子供達の生きる力を育み、教職員・保護者・地域住民等がともに成長し、学校を核として地域ネットワークが形成される



○学校と地域・家庭との連携を進めるために

- ・地域の方と学校が顔を合わせ、それぞれどのような課題があるかを知り、何ができるのか共に考える
- ・無理のない活動からスタートする
- ・地域連携担当教員と地域学校協働活動推進員等との定期的で密な連絡調整により、情報共有と取組の企画・実施が円滑になる

○効果的なコミュニティスクール運営のポイント

- ・無理せず、楽しく
- ・WIN-WINの関係づくり
- ・人が変わっても継続できるシステムの構築
- ・全教職員が関わることができる仕組みを確立

◆交流

「共育支援メニューフェア」

教育支援活動の充実のため、専門的な知識や技能を持つ企業、NPO等各種団体、行政機関大学等の方々と参加者が情報交換、意見交流し、支援内容について相互理解を深めた。

◆グループディスカッション（熟議体験）
「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールとの連携について」

- 「子供のコミュニケーション力を高めるために」をテーマに、学校運営協議会における熟議の体験を行った。参加者は学校運営協議会の委員となり、「校長」「保護者」「地域住民」の立場で話合った。

【校長の立場でできること】

- ・子供たちに挨拶だけではなく、加えて何か一言を言うように指導する
- ・学習において小グループでの活動を増やすようにする
- ・イラストなどを活用した楽しい地域学習をする



【保護者の立場でできること】

- ・家庭で同じ本を読んで、その本を使った読み聞かせを行う
- ・家庭での会話を増やす
- ・学校と連携して子供がスマホを使う時間を設定する

【地域住民の立場でできること】

- ・地元の公民館等で俳句等の講座を行う
- ・挨拶運動を行い、子供たちに声かけをする

5. 参加者の声（アンケートより）

- ・講演会の内容から、学校と地域の連携がしっかりとできているのに感心した。お互いの信頼関係ができるまでには、こつこつとできることから始め、長く続けられる取組が大切だと考えさせられた。（小中学校教員）
- ・押しつけではなく、みんなで地域を考え、参画していくことが学校運営協議会だと改めて気付かされた。（県立学校教職員）
- ・共育支援メニューフェアをコミュニティ・スクール研修会の中に組み入れてくださったので両方学ぶ機会を得られてありがたかった。（小中学校教員）
- ・グループディスカッションは大変楽しかった。最初は難しいと思ったが、ディスカッションをしていく中で考えがまとまり、方向性ができ、これが熟議の良い点なのだと実感した。グループメンバーの地域・学校の取組状況が交流できたのもよかった。（小中学校教員）
- ・実際に熟議を体験できてよかった。（社会教育関係者）
- ・グループディスカッションでは他校、他地方の取組を伺うことができ、大変参考になった。新しいアイデアが生まれた。（小中学校教員）